

No.490

モササウルス

今回は恐竜きょうりゆうによく似た生き物の話です。モササウルス類ほくあきこうきは白亜紀後期（約 9800 万～6600 万年前）の海や川ちゅうるいに生きていたハ虫類で、恐竜ではなくへビやトカゲに近いグループです。白亜紀末に恐竜いっしょと一緒に絶滅ぜつめつしました。全長は最大ぜんちよう18mにもなり、体は流線形りゅうせんけいをしていて、前足まえあしと後足うしろあしはヒレ状になり、泳ぐのに適した体型てきたいけいをしています（図1）。モササウルス類の歯は、後ろに少しカーブした先の尖った円錐形えんすいけいをしています（図2）。上アゴには、外側に左右一列の歯えんべんし（縁辺歯）、奥の内側に左右一列の歯よくじょうこつし（翼状骨歯）があり（図3）、主に魚やアンモナイトなどを食べていたと考えられています。

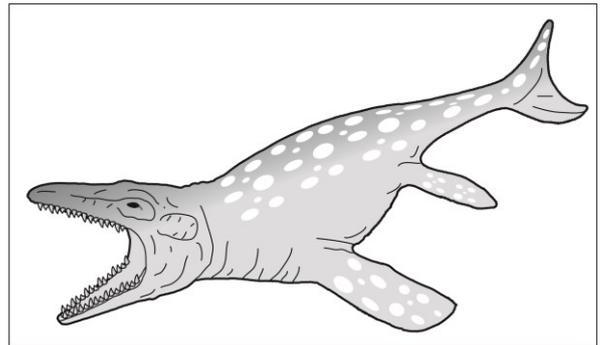


図1 モササウルス

尾の形は以前、ハ虫類のウミヘビのようにボートのオール状になっていたと考えられていましたが、近年、ヨルダンで発見された保存状態ほぞんじょうたいの良いモササウルス類の化石から、サメのような三日月状みかづきじょうの尾ビレおを持っていたことがわかりました。この尾ビレを使って速く泳ぎ、獲物えものを捕らえていたのでしょう。

富山県では見つかりませんが、日本では、北海道ほっかいどう、大阪府おおさかふ、和歌山県わかやまけんなどでモササウルス類の化石が発見されています。（藤田将人）



図2 モササウルスの歯化石

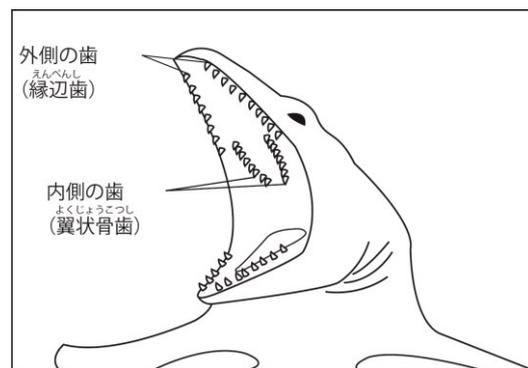


図3 モササウルスの歯の並び方

今月のかぐのギモン：

ティラノサウルスの化石からオス、メスはわかりますか？

（答えは当館ホームページをご覧ください）